

概要版

札幌市円山動物園基本計画の進捗状況

★ 基本理念「人と動物と環境の絆をつくる動物園」の実現に向けた取組状況 ★

基本計画 79事業…進捗率 83%

一部について、計画どおり実行できていない事業があるものの、「札幌市における円山動物園の役割」や「事業展開の考え方(ソフト事業)」については、ほぼ計画どおり達成できていることから、概ね計画どおり進捗しているといえる。

第1章 円山動物園の役割と行動指針(37事業)

1 札幌市における円山動物園の役割

【計画概要】

札幌市における円山動物園の役割は、①札幌市の環境教育の拠点となること、②北海道の生物多様性確保の基地となること、③多様なメッセージの発信拠点となることです。

これを実現するため、園内の施設・展示・広報・イベント等を通じて、環境メッセージや札幌市の施策と連携した様々なメッセージを発信するとともに、環境教育を推進することとしています。また、北海道の野生動物を復元するとともに、種の保存に向けた絶滅危惧種を園内で繁殖することとしています。

【進捗状況】…進捗率95% 教育普及事業152件3,505人(平成22年度実績)

○平成22年度以降、ペレットボイラを設置するなど、園内施設の環境教材化を進めています。
○説明看板について、札幌市立大学の協力や飼育担当者のプロジェクトによりデザインの検討を行い、整備しました。また、園内樹木マップを新たに作成しました。

○動物園だよりや円山動物園公式ホームページなどにより環境保全の大切さを積極的に伝えるとともに、「Earthday Ezo in 円山動物園」や「動物園の森ツアー」といったイベントを開催するなどにより環境教育を推進しています。

○「ハーティナイト(障がい者福祉)」、「子育てサロン(子育て支援)」、「カバの誕生会(高齢化社会)」など、札幌市の方針や施策を具現化するイベントを毎年開催しています。

○平成20年度以降、絶滅危惧種であるホッキョクグマ、ユキヒョウ、レッサーパンダ、ダイアナモンキー、ヨウスコウワニの繁殖に成功しています。また、動物園の森では、ニホンザリガニを繁殖しています。

【課題】

○イベント内容や説明の充実、展示方法の工夫 ○園内職員の資質向上 ○速やかな情報更新

2 3つの柱(行動指針)

【計画概要】

円山動物園は、①「わたしの動物園」という視点からの行動、②生物多様性の確保に向けた行動、③自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動、の3つの行動指針に基づき、動物園を運営していくこととなっています。

これを実現するため、あらゆる場面で市民参加の機会を拡大するとともに、産学官連携により自然を復元し、体験プログラムを実施することとしています。また、円山エリアで一体となった自然活用や交通対策の検討、イベントなどを展開することとしています。

【進捗状況】…進捗率68% アニマルファミリー5,134千円(平成22年度決算予定)

ZOOガイドボランティア79人・森のボランティア21人(平成23年4月現在)

○アニマルファミリー制度、各種ボランティアなどにより、市民参加を進めています。また、札幌市立大学、酪農学園大学と連携した研究などを行うとともに、企業と連携した環境体験プログラムや企業協賛によるイベントを実施しています。

○「札幌まちめぐりパス」や「さっぽろタパス」に参加するなど、円山エリア回遊のための取組を行っています。また、円山川でニホンザリガニの生息調査や水質調査を行いました。

【課題】

○市民参加のメニューや参加方法の検証 ○オオワシの野生復帰の方向性
○円山のまちづくりとの連携

第2章 経営戦略とソフト事業(21事業)

3 持続可能な経営の考え方(経営戦略)

【計画概要】

経営環境の変化に対応しつつ老朽化施設の維持管理や更新を行うことによって動物園を維持継続していくため、経常的収入の倍増・経常的支出の30%削減により基礎収支構造の均衡を目指しつつ、入園者数100万人を目指すこととしています。

【進捗状況】…進捗率60% 経常的収入64%増・経常的支出7%減(平成22年度決算予定。H17比)

○平成22年度の入場者数は832,419人と、平成17年度(490,914人)の70%増となり、経常的収入は260,304千円と、平成17年度(158,531千円)の64%増となった一方、経常的支出は、平成22年度は400,615千円と、平成17年度(429,760千円)と比較して7%減となっています。

【課題】

○環境教育拠点・観光資源としての積極的なセールス ○一層の収支均衡に向けた取組

4 事業展開の考え方(ソフト事業)

【計画概要】

事業展開にあたっては、「お客様を惹きつけ、メッセージを伝える」ことを基調としつつ、新たな魅力により新たな客層を対象とした取組を行うとともに、新たなPRや新たな学びを提供することによって、「本物の動物園」を訴求するブランドづくりを行っていくこととしています。

【進捗状況】…進捗率98% イベント実施数76件(平成22年度中開催件数)

○「円山ZOO LOHASナイト」、「狼祭」等の新規イベントを実施するとともに、学習教材用ワークブックを開発しました。また、公式HPをリニューアルしたほか、飼育員ブログや動画サイトを開設するなど各種メディアを活用したプロモーションを展開しています。

【課題】

○インバウンド対応 ○各種イベント展開時の財政運営上の工夫

第3章 施設整備と動物管理(21事業)

5 展示・施設の考え方(施設整備と動物管理)

【計画概要】

展示・施設整備にあたっては、①円山エリアにおける一体的な空間創出、②「段階的展示導入方式(円山メソッド)」の実施、③入園者の利便性の向上、の観点を検討し、地下鉄から円山動物園までの整備、北海道・北方圏ゾーン整備、野生復帰・自然体験ゾーン建設、アジア・アフリカゾーン建設、類人猿・モンキーエリア整備、ふれあいゾーン建設、トイレ・授乳スペース整備、野外ステージ建設、コンビニ・カフェ・レストラン等の誘致、園内交通整備などを行うこととしています。

【進捗状況】…進捗率76% 動物施設10棟建設 便益施設2棟建設

○環境エンリッチメントに配慮しつつ、平成18年度にサル山改修、平成19年度に類人猿館改修、平成20年度に動物園の森整備、エゾシカ・オオカミ舎を新設、オフィシャルショップ・カフェ・コンビニエンスストアがオープン、平成21年度にエゾヒグマ館建設、野生復帰ゾーン建設、平成22年度には虫類・両生類館建設、平成23年度にアジアゾーン建築着工(平成24年度竣工)、アフリカゾーン建設基本設計、トイレ・授乳室の増設などを実施しました。

【課題】

○円山エリアの整備 ○野外ステージの建設 ○園内交通の整備 ○アジアゾウの導入

※ 各章の進捗状況には平成23年度中の実施見込みを含む。